

寂聴辻説法（3）

瀬戸内寂聴

集英社インターナショナル ウェブ立ち読み

念願の管理職になれましたが、職場の中で孤立感を感じています。

半年前に念願の管理職へ昇進しました。しかし、その立場になってみると今まで気がつかなかった職場の他の女性たちとの、仕事に対する意識の違いが浮き彫りになり愕然としてしまいました。

もちろん他の人間とはうまくやっていきたいのですが、部下として他の女性社員に接すると、ついつい彼女たちの甘い考えに腹が立ち、厳しく当たってしまいます。

こんなふうにストレスを溜めて生きていいのだろうか、一人の女として考えたときに、はたして自分は幸せなのだろうか。そう思うと不安です。いったいどのように対処していけばいいでしょうか。(三〇代女性 会社員)

あなたが周囲の同僚、ことに若い社員に対して腹が立つのは当然のことです。社会に出たばか

りの若い人たちはやる気はあっても、足りないこと、分からないことがたくさんある。だからこそ、あなたのようなしつかりした人を上司につけようというのが会社の考えなのですから、いちいち腹を立てていては体が持たないというものですよ。

そもそも、あなただつて会社員として未熟みじくだった時期があるはずです。新入社員の間には先輩の社員から同じように思われていたに違いありませんし、ひよつとしたら今のあなたが部下に対して言っていたようなことを、かつてはあなた自身が言われていたかもしれない。でも、人間というのは往々にして自分に都合の悪いことを忘れて、他人のアラばかりが見えてくるし、自分だけが不幸で孤独に思えてくる。

あなたが心配に思っているように、今のままの調子で部下に接していたら、あなた自身がお局おぼく様と呼ばれ、「嫌な女」になってしまうでしょう。ですからここは、十のことを言いたくても一か二に止めておいて、じつと我慢して部下の成長を待つしかない。言い換えれば、そこで我慢できるかどうかあなたがあなた自身が管理職として成長できるか、できないかの分かれ道なのです。

それに考えてもごらん下さい。一から十まであなたの言うことを「おっしやるとおりです」なんて言っている部下がいたら、そのほうがおかしくて、気持ち悪いではありませんか。そんな部下をうかうかと信用したら、かえって足をすくわれかねません。

どんなことでもそうですが、仕事は一人ではできません。誰かが助けてくれ、力を貸してくれてこそ目標は達成できる。大きな仕事、責任ある仕事をしようと思うならば、なおさら部下の力

を借りなければ何もできません。そんなときに部下の欠点ばかりを見て、批判していたのでは誰もついてきてくれないどころか、誰も助けてくれなくなります。むしろ、少しでもいいところがあれば、その場で褒めていくのが管理職の仕事というものです。

もちろん未熟な部下を育てるのは面倒なことではあるでしょうし、腹も立つでしょう。しかし、ここはあなたが成長するチャンスと思つて、周囲のみなが気持ちよく働いてくれるような心配りをしてもらいなさい。

.....

誰でも最初は未熟者です。あなただって、最

.....

初は未熟者だったのです。それを思い出して

.....

ください。

.....

子どもたちの病気の原因は、私の過去の因縁でしょうか？

四六歳の女性です。一八歳になる長男が先天性の心臓病を持ち、一六歳の次男は、二年前に骨肉腫こつにくしゅという小児がんけいがんに罹かかりました。二人とも手術などの治療を経て、今は学校に通っていますが、長男の心臓は将来機能不全になる恐れがあり、次男のがん再発率もゼロではありません。

私は子どもの死の恐怖から、現在神経科で抗鬱剤こううつざい、抗不安剤こうふあんざいの処方を受けていますが、それでも心が休まりません。

すべての物事ものごとには原因があり、子どもたちの病気の原因も私のさまざまな過あやまちにあるのではと思うと、悲しくてなりません。

妊娠中にもかかわらず、ストレスの強い仕事を続けていたこと、あるいはタバコの煙の立ちこめる職場でずっと働いていたこと……そうしたことが子

.....
子どもの病気につながったのではないか、などと思うのです。死の恐怖、罪の意識を乗り越えるには、どうすればよいでしょうか？（四〇代女性 会社員）

あなたはしきりに過去のことを反省しておられますが、子どもたちの病気に対して、あなたが罪悪感を持つ必要はどこにもありません。

たしかに、お釈迦様は「因果」「因縁」の教えを説いておられますが、それはおおざっぱに言ってしまうと「私たちの心の中にある煩惱が原因になって、すべての苦しみが生まれている」ということであって、いわゆる「親の因果が子に報い……」などといったことはいっさいおっしゃっていません。

世間には、何か家庭に不幸が起きると「それはあなたが先祖や親兄弟のお墓参りをしていないからだ」とか「家相が悪いのだ」などと言う占い師がいますが、仏教ではそうした話はいっさい認めていません。

そもそも宗教とは人の心を安らげるためのものです。崇りなどを持ち出して人を脅して不安にするような教えは、宗教の名に値しないインチキです。むずかしい言葉でいえば、そのような教えは「淫祠邪教」というのです。

たしかに、あなたのお子さんは病気になったのは事実でしょうが、しかし、人間ならば誰でも

病気になるものですし、しかも、あなたの二人のお子さんは今ではむずかしい病気も癒えて、学校に通っておられるのですから、見方を変えれば、あなたほど幸福なお母さんはいないとも言えます。

世の中には、お医者さんでさえ、さじを投げるような難病で、若くして死んでいく子どもたちがどれだけ多いことか。そのようなお子さんを持ったお母さんたちから見れば、あなたは本当の幸福者というものです。

それなのに、あなたは将来に対して不安ばかりを感じ、心配しなくてもいい心配をしておられる。そんな具合に、つねに恐怖に駆られて暮らしているお母さんの姿が、子どもたちの目にどのように映っているのか、私はそのことのほうが心配です。

あなたのお子さんを幸せにしたければ、まずあなた自身が毎日、子どもに笑顔で接してあげることです。言い古された言葉ではありますが、「病は氣から」というように、あなたがにこやかに、生き生きとしていれば、子どもたちの精神は落ち着き、きっと体調ももっとよくなるはずですよ。

過ぎたことをあれこれ悩んだところで何が変わるといえるものはありません。それよりも、まずは今の自分を大切にしてください。

病院に通っておられるというのですが、きちんとお医者さんの言うことを聞いて、あなた自身の病気を治すことが先決です。

会社の存続か自分の利益か、経営者としての岐路に立たされています。

私はある電機メーカーに部品を卸す工場を営む、会社経営者です。現在社員が九〇名おり、身体障害者も多数雇用し、とある経済紙からも称賛を受けました。

しかしこの不況のあおりで現状のままでは二年で資金繰りに行き詰まることが分かってきました。そんな折に、取引先のメーカーから「役員として会社に来ないか」と誘いを受けました。ただしその条件は年内に会社を閉じ、全社員を解雇することだということです。

家族のこともあるので、会社を整理して転職すべきなのか、それとも最後まで諦めずに、社員とともに今の会社で頑張っていくべきなのか悩んでおります。(四〇代男性 経営者)

本当に不景気な世の中になりました。政治家たちやマスコミはいろんな景気対策や雇用策を打ち出していますが、この日本の不景気はちよつとやそつとでは回復しないと思います。経営者として、ほんとうにご苦勞をなさっていると同情します。

私自身は経営者になった経験はありませんが、それでも寂庵には一〇人近いスタッフがいます。この人たちは私の仕事を手伝ってもらうために働いてもらっているのですが、ときに「スタッフにお給料を払うために、こうやって幾晩も徹夜して原稿を書いたりしているのかしら」と愚痴をこぼしたくなることもあります。

しかし、やはりこのスタッフが手伝ってくれているから私はこうやって小説を書けたり、いろんな人に会うゆとりが生まれてくる。そうしてみれば、やはり寂庵のスタッフは私の家族であり、仲間であつて、単なる「従業員」ではないのだとしみじみ思ったりもします。

そこで私なりに考えると、「最後の最後まで努力をする」というのは一人の人間の生き方としては悪くないことかもしれませんが、あなたが自分の美学を押し通すことで、身体障害者の方も含めた九〇名の従業員たちがある日、突然、職を失うことになれば、それこそ弁護の余地がないというものでしょう。

あなたが会社を今たむにしても、また続けて行くにしても、とにかく従業員の人たちに「このままでは二年で会社が倒産する」ということを伝えることが先決であろうと思います。

それを知った従業員の人たちが「どうなるか分からないけれども、社長と一緒にこの会社を支

えていきたい」と考えるのか、それとも「だったら、少しでも退職金がもらえるうちに辞めたほうがいい」と思うのか、それを問うことが大事ではないでしょうか。「社員は家族同然」というのならば、洗いざらい真実を伝えたほうが誠実ではないかと思えます。

私もかつてある会社の経営者から似たような相談を受けたことがあります。

その会社はあなたの会社よりもずっと大きくて、二〇〇名以上の従業員を抱えていたのですが、やはり経営が思わしくなかった。

そんなところに他の会社から好条件の合併話が持ちかけられたのですが、その会社の人たちは自分の会社の経営状態もよく知らないうえに、名門企業としてのプライドが高いものだから「あんな会社に吸収されるなんて真つ平だ」という反応だったそうです。そこで困り果てた経営者が私のところに相談にいられたのです。

私はその話を聞いて、即座に「このままでは会社がダメになるのが分かっているのですから、変なプライドなんか捨てて合併するしかないじゃないですか」と答えました。

その経営者は私の意見でようやく決心をしたのでしょうか、社員を全員集めて「この合併話を受け入れない限り、我が社は立ちゆかなくなる。もちろん、吸収合併されるのがイヤだという社員もいるだろう。そういう人には退職金など、できるかぎりのことをするから辞めてくれていい合併したら大変だろうが、新しい会社で私と一緒に頑張ってくれないか」と挨拶したのだそうです。

美しかった叔母の変わり果てた姿を直視できません。

幼い頃から私をかわいがってくれていた叔母が、二カ月前に脳梗塞のうこうそくで倒れました。今は医療機器につながれて人工的に生かされている状態です。

意識もなくベッドで横たわる叔母を見て、あまりの変わりように背筋せすしが寒くなり、隠れて病院のトイレで吐はきました。そのシヨックなまなまが生々しくて、その後、家族から見舞いに誘われても、さまざまなお実を作って病院に足を運んでいません。

「あんなに愛してくれていた叔母に対して、なんて自分は冷たいのだろう」と思い、夜も眠れなくなってきました。どうしたらいいのでしょうか。(二〇代女性)

今の時代は核家族化が当たり前になってしまったので、こういうナイーブな質問が出るのでしようね。

昔は大家族が普通で、どこの家にもお年寄りが小さな子どもと同居していたし、また人が亡くなるのも病院ではなく、自宅の畳の上というのが常識でした。ですから、老いて、病気になるれば、どれほど若いころには美貌を誇った人でも変わり果てた姿形で死んでいくのだという事実は、どんな子どもでも知っていました。

しかし、高齢化社会と言われながら、今の日本の若い人は日常生活の中でお年寄りと接することもないし、ましてや寝たきりの老人を間近で見える機会がほとんどない。だから、あなたのように愛してくれた叔母さんが変わり果てた姿になったのを見てショックを受け、それに嫌悪感を抱くのです。

老いや病の現実には誰だって見たくないし、目をそむけたくなくなるのが人情です。やがては自分もそうなるのだと思えば、なおさら、そうした光景から逃げたくもなります。

ですから、あなたが叔母さんの姿を見て背筋が寒くなる感覚に襲われたとしても、ちっとも薄情なことではない。むしろ、それが普通の感覚です。ですから、過剰に自分を責める必要はどこにもありません。

私だって、年来の友人が病気で倒れたと聞き、慌てて見舞いに駆けつけければ、普段とは違ってお化粧もしていない友人の、変わり果てた姿に正直、ショックを覚えるものです。私のように九〇年近く生きていてもそうなのですから、あなたがそう思うのは無理ありません。

ただ、今は若くて肌もきれいなあなたも、やがては叔母さんと同じようにしわだらけになり、

やせ衰はらえて死んでいくのです。だから「今の叔母さんの姿は将来の自分なのだ」とも思っ
てほしいと思います。そうすれば、単に汚いとか、怖いといった以外の感情もあなたの中に生まれる
のではないでしょうか。

誰だって、死や老いは怖い。それを恥じる必

要はどこにもありません。

子育てや家事と仕事の両立は可能でしょうか。

今は専業主婦として、小学校三年の子どもを育てていますが、近い将来、飲食店をやりたいと思っています。夫は賛成してくれていますが、もし開業すればやはり家を空けることになります。そうなったときに、家族の幸せが失われはしないか不安で、行動に踏み切る決心がいまだにできません。(四〇

代女性 主婦)

あなたが思うよりも小学校三年生は物事が分かってきているものですよ。飲食店を持つことがお母さんの年来の夢であったこと、そしてその夢を実現させて、真剣に仕事に取り組んでいる姿を見せることも立派な家庭教育です。ましてやご主人は賛成してくれているのですから、躊躇せず(ちゅうちゅうせず)に飛び込むべきです。

どんなことでもやろうと思えば障害の一つや二つはあるものです。そこを気にして「失敗したらどうしよう」「何か事件が起きたらどうしよう」と不安を持ちだしたら、どんなことでもうま

くいきません。

やってみる前に心配していても何の意味もありません。「私がやれば大丈夫」「きつと何とかなる」というプラス思考に立つて物事はスタートさせるものです。もちろん実際に始めてみれば、思いもかけない問題が起きるかもしれない。しかし、それが何かも分からないのに、今から不安になってどうするのですか。

せつかくあなたには具体的な夢があるので、そこに向かってチャレンジしていく姿をお子さんに見せてごらん下さい。可能だったら、週末は子どもにお店の仕事を手伝わせるくらいのことをしたほうがいいかもしれません。お母さんが生き生きと働いている姿をじかに見せてあげれば、子どもはきつとそこから何かを学びとってくれるはずですよ。

.....
.....
.....
どんなことにも不安はつきもの。余計な心配
.....
.....
.....
をするよりも、まずは行動を。
.....
.....

母親に暴力を振るう父親。

同居している両親のことで悩んでいます。

父は母への束縛^{そくばく}や独占欲が強く、昔から母に暴力を振るってきました。母はそんな父の暴力や執拗^{しつよう}な嫉妬^{しつと}、妄想^{もうそう}に苦しみながらも、私と弟を育ててきました。

私が社会人になってからは、暴力はなくなりましたが、些^せ細^{さい}なことで「母は不倫している」と思い込み、母を攻撃します。もちろん母には、そんな経験は一つもありません。

父親の言動を見ると、精神面に問題があるのではないかとも思うのですが、本人は自分が正常だと思いつ込んでるので医者にも連れていけません。母は過去に離婚も考えたそうですが、父の性格からして、離婚の話をした

だけで逆上して何をしでかすか分からないので諦めたそうです。

このままでは両親のことが心配で、独立して生活もできず、ましてや結婚など考えられません。いったいどうしたらいいでしょうか。(二〇代女性 専

門職・医療関係)

たしかに最近では、さかんにDV(ドメスティック・バイオレンス＝家庭内暴力)の問題が叫ばれています。

私の知っている例でも、外面ではひじょうに仲がよさそうに見える夫婦がいたのですが、実は日常的にご主人が奥さんに対して暴力を振るっていて、最後には警察に駆け込んでようやく離婚できたという話があります。これに限らず、そうした暴力的な配偶者に困っている女性は世の中にたくさんいるのは事実です。

しかし、夫婦のことは、たとえば実の子どもであっても——いや、実の子どもであればこそ、なかなか分からないという面もあります。

あなたのご家族の場合は、先ほどの例とは正反対で、外から見えていたら、毎日諍(いざ)いばかりをしているように見えますが、実は他人には理解できない形の愛情で結ばれているのかもしれない。あなたのお父さんがお母さんに対してつねに猜疑(さいぎ)心を抱いて、束縛(くわく)しているのは、愛情の裏返し

とも受け取れます。

お母さんが二〇年も連れ添ってきて、いまだに離婚していないというのも、そうした気持ちがかかっているのです、最後のところではお父さんを許しているからかもしれないかもしれません。

こうした夫婦の機微は、第三者からはなかなか分からないものです。あなたに対してお父さんの愚痴をこぼすときと、夫婦二人きりになったときにお父さんに向けるときとで、お母さんの表情はぜんぜん違っていても、けっして不思議ではありません。

お父さんが暴力を今でも振るいつづけて、お母さんの生傷が絶えないというのであれば別ですが、そうでないのであれば、あなたが生まれる前から連れ添ってきたご両親のことはご両親に任せて、自分の幸せをお考えなさい。

まずは両親から離れて自活をし、素敵な男性を見つけて恋愛をすることです。

それでもどうしてもお母さんのことが心配だというならば、あなたが自分のサラリーでアパートを借り、お母さんを引き取ればいいだけのことで、実はそうむずかしく考え込むほどのことでもありません。むしろ、あなたのほうが両親から独立できていないのかもしれないと私は思っています。

もう一つだけアドバイスを付け加えるとすれば、もし男性と付き合うときには「絶対に私に手を上げないでね」と約束してもらってください。人間というのは不思議なもので、一番憎んでいるはずの肉親に似た人と恋愛したり、結婚したりするものです。それだけは避けたほうがいい

でしよう。

夫婦のことは他人には分かりません。まして

や肉親だとますます分からないもの。

医師を目指していましたが、挫折しました。

私は子どもの頃から医師になりたいと思っていましたが、大学受験に失敗し、一年浪人をして再挑戦したのですが、夢は叶わず、別の学部に入りました。しかし、それでもやはり医者になる夢は捨てられなくて、休学をして受験勉強をしたのですが、またしても不合格でした。

経済的、精神的にも支えてくれた両親にも大きな迷惑と喪失感を与えてしまい、自分が憎くて憎くて情けなく感じます。かといって、これからどうしたらいいか分からず、途方に暮れています。

今さら大学に復学しても、年齢の関係などで就職はむずかしいでしょうし、そもそもこれから何を目指して生きていけばいいかも分からず、苦しい毎日を送っています。こんな親不孝者は生きている資格もないのではないかとさ

.....
え思います。夢も未来の希望もない私は、これからどうしたらいいでしょう
か。(二〇代女性)

この医師不足の時代に、お医者さんになりたいというあなたの気持ちはたいへん貴重なもの
とは思いますが、しかし、相談文を読んでいると、あなたがはたしてどれだけ本気で医者になり
たかったのか、私は疑問に感じます。

私がかつて故郷の徳島で開いていた寂聴塾しやくていしゆくの塾生の中に、ある資格をどうしても取りたいとい
う女性がいきました。その資格は勉強もたいへんで彼女は何度も試験を受けたのだけれども
合格できずに、周りまわりはもう「いい加減にしたら」と止めたくらいです。しかし、彼女はそれでも
諦めあきらずに何度も挑戦を繰り返して、とうとう合格して、今ではある大学の准教授までやっていま
す。

あなたの相談の中には「夢」という言葉が何度も出てきますが、夢はしよせん叶わないものだ
から「夢」なのです。

本当に何かになりたい、何かをしたいと思うのであれば、それを「夢」のままで終わらせずに、
しがみついてもやり遂とぎげる覚悟がないといけない。しかも、そうやってしがみついても、結局、
才能がないという事実^{じじつ}に直面するかもしれない。

たとえば世の中には小説家になりたいという人はたくさんいます。しかし、その中で何もかも振り捨てて、家族を捨てても小説を書きつづける人はめったにいない。たいていの人は途中で障害を乗り越えられずに挫折してしまいます。また、本人は諦めたくなくとも、自分に才能がないのではないかという思いに囚われて、筆を折る人もいる。

もちろん小説と医療とは、まったく世界が違います。しかし、何かになりたいという思いにおいて、さほど変わらないと私は思います。

そこであえて厳しいことを言いますが、あなたの相談文からは「意志」を感じられません。何が何でも医師になりたいのであれば、入りたくもない大学に籍を置いて、無駄な学費を親に払わせる必要はありません。自分一人でアルバイトでもしながら勉強はできるのではないですか。

しかも、医師になったかかったと言いながらも、一方では復学して人並みに就職したいのにそれもできないと嘆いている。どちらつかずです。結局、あなたの医師になりたいという希望は「夢」でしかないと思います。

どんなことでも夢を現実のものにするには意志が必要です。

しかし、あなたにはその意志が感じられません。ひよつとしたら、親御さんが「医者になつてほしい」と望むので、あなたも「医学部に入らねば」と思い込んでいるだけではないかとも思います。

とにかく、このままでは医学部に入るのも、就職するのも、どちらを選んでもうまく行かない

でしようし、後悔こうかいが残るだけです。まず、あなた自身で決断をし、覚悟を決めることです。

本当にやりたいことがあれば、しがみついて

でも努力を続けなさい。そうでなければ、た

だの「夢」です。

水子供養の正しい仕方を教えてください。

結婚をして八年になる主婦ですが、過去に二回、墮胎だたいをしています。相手は今の主人ですが、その頃は私も主人も子どもを育てられるほどの精神力も経済力もなかったので、墮胎手術を選択しました。その後、お寺に行き水子供養くまうをしていただきましたが、流産と墮胎とは同じ水子とはいえ、供養のやり方はまったく違うのではないかと思うのです。私のように墮胎をした場合、どのような供養をすればよいのでしょうか。教えてください。(二〇代女性 主婦)

あなたは妊娠中絶をしたことをたいへん悔くやんでおられます。たしかにその後悔はよく分かりますし、この世に生まれることなく亡なくなってしまった幼子わなごの菩提ぼだい(冥福めいふく)を祈る気持ちも当然だと思います。

しかし中絶が即、罪になるかといえ、これはとてもむずかしい話で、一言で片付けることはできない問題です。

今から三二年前、フランスの女流作家で思想家でもあったシモーヌ・ボーヴォワールが、そのパートナーでもあった哲学者のサルトルと一緒に来日したことがありました。

あなたのような若い人はご存じないかもしれませんが、当時はボーヴォワールといえばフェミニズムの原典となった『第二の性』や数々の自伝的小説の著者として、世界的に影響力を持った女性でしたから、その彼女が来日したと聞いて、私を含めた女流文学者たちで一席を設けて文学談義をすることにしました。

ところが、彼女は席に着くなり「今回、私が日本に来たのは、この国に人工妊娠中絶の自由があるので、その実態を研究するためなのです」と宣言して、フランスでは宗教的な理由から墮胎が禁じられているために、どれだけの女性が傷つき、苦しんでいるかを力説したのでした。当時の日本人の感覚からすれば、「日本よりはフランスのほうがずっと女性解放が進んでいる」という印象があったのと、文学の話をするつもりが、思わぬ演説を拝聴することになったので私たちはちよつと度肝を抜かれた感じになったものです。

それはさておき、たしかに今でもアメリカの一部をはじめとして人工妊娠中絶が禁止されている国や地域があります。そうした国に住む女性から見れば、中絶が自由にできる日本の女性は恵まれていると思うのでしょうか。

しかし日本の女性たちの中には、あなたのように墮胎したことを後悔して、罪の意識を持って暮らしている人がたくさんいます。さらに、妊娠何週目から、胎児が生存の権利を持つかについても意見が分かれているのも事実です。

ですから、私自身としてはあなたが二度、墮胎したことについては、それが悪いとか罪であると単純に決めつけたり、責める気はありません。しかし、やはり生まれてくるはずだった命を世に送り出してあげられなかったことに対して、あなたが今でも気が咎めているというのは当然のことだと思えます。

ただし、そうした女性の気持ちにつけこんで、「水子供養をしないと祟りがある」「お祓いをしないと悪いことが起きる」といって、お布施を強要したり、あるいは高い水子地蔵を建てさせるようなお寺が多いことには憤りを感じずにはいられません。

本当の供養というのは、そうやってお布施を出したり、あるいはお地藏様を寄贈することではなくて、亡くなった子どものことをあなた自身がずっと忘れずにいてあげることです。そうして思い出してあげることが、亡くなった赤ちゃんの魂を供養することなのです。「あなたを産んであげられなくて、育ててあげられなくてごめんなさいね」と思うだけで十分です。

亡くなった赤ちゃんはすでに仏様になっただけです。仏様が生きている人を恨んだりするわけがないじゃないですか。

世の中には、何もしないと霊障があるとか、因縁がどうか言っただけ脅す人がいますが、そん

な言葉に耳を貸す必要はありません。あなたのその気持ちだけで十分です。

本当の供養とは「忘れない」こと。

私は仕事運が悪いのでしょうか。

一流大学を卒業後、一流企業に入社し、会社でも仕事を評価され、海外留学も経験しましたが、約一〇年前に会社が合併してからというもの、いいことがありません。

最初に入社した企業は他社と合併し、そのため自分の将来に展望がなくなったので、同業の外資系会社に転職しました。ところがその新しい会社で今度は、自分の担当している仕事は業務縮小になってしまいました。そのため自分の力を発揮しようにも、それにふさわしい大きな仕事がなくなり、いまだに部下もいない状態です。

どうしてこんなに仕事運が悪くなったのでしょうか。今では仕事に前向きになれず、悶々もんもんとしております。アドバイスをお願いします。(四〇代男性)

これは結論からいえば、運が悪いとか、上司や部下のせいにするのではなく、「今の状況は自分自身が招いたもの」と謙虚けんこに反省すべきです。

あなた自身が書いておられるように、あなたは若い頃には頭もよく、だからこそ立派な会社に入って、そこで大きな仕事も与えられてきたのでしょうか。しかし、そんなことは「過去の栄光」です。なのに、それをいまだに引きずっているために、プライドが邪魔をして今のようないき詰まりに至ったと私は思います。

そもそも、あなたは自分自身で「一流大学」「一流企業」と書いていますが、そんな言葉をこのような場で平気で言えるということ自体、あなたはデリカシーが欠けています。仕事ができる人は、他人に対して自慢などしたりしないものです。ましてや学歴自慢など、無神経にもほどがあります。

本当に頭がよく、仕事ができる人は、自分の仕事で成功したのは自分だけの手柄ではなく、部下や同僚、上司などの協力があったることだと分かっているから、自然と謙虚になるものです。

しかし、あなたはそんなことが分からないままに大人になってしまったから、きつと合併先の会社でも、また転職先の会社でも昔のことを自慢してきたのでしょう。それでは周りの人は反感

こそ覚えても、誰もあなたと一緒に仕事をしようとは思いません。今、職場で孤立してしまったのは、まさに身から出た錆さびです。

でも、幸いなことにあなたは今、「こんなはずじゃなかった」とうろたえています。口には出さなくても「どこか自分が間違っていたのではないか」と思っているからこそ、恥をしのんで、相談をしようと考えたのではありませんか。そう思っているところに、まだあなたのチャンスが残されていると言えるでしょう。

といつても、もう四〇歳を過ぎたあなたがそうそう簡単に変わるわけではありません。おそらくあなたは学校時代は受験勉強を一心不乱いっしんぱんにしてきて、小説も読まず、映画もろくに見てこなかったのではないでしょう。

あなたはたしかに頭はいいでしょう。しかし、人生は大学入試のように答えは一つではありません。むしろ、そもそも正解などないのがこの世の中なのです。一〇〇人の人がいれば、一〇〇通りの考え方、感じ方がある。その中で他人と折り合いをつけて暮らしていくのが人生なのですから、まずは他人の気持ちおんこころを慮おぼやる心を養やしなわないと、これからもきつとうまくいかないでしょう。でも、不幸中の幸いにも、今、あなたは人生で初めて挫折ざつせつを感じて、苦悩を味わっています。

その経験を生かすことです。つまり、あなたが今、苦しみ、悩んでいるようにあなたの同僚や家族もまた、悩みや不幸を抱えているのだと気付くことです。

不幸なのはあなただけではない。みんなが等ひととしく不幸なのだと思付くことがすべての始まりであ

るといのがお釈迦様の教えの基本です。ですから、悩み、苦しんでいる今こそが、あなたのチャンスだとも言えます。

と言っても、ではどうやってこれから変わっていかばいいか、今のあなたには分からないでしょう。そこで大事になってくるのが小説や映画といった芸術作品に接することです。そこにはたくさんの人たちの苦しみや、悲しみが描かれています。

成長には時間はかかるかもしれませんが、うまい具合に今は仕事がありませんのでしょう？ だったら、とにかくたくさんさんの芸術作品に触れる努力をしてもらいなさい。芸術や教養は心を育てる最高の栄養です。すべてはそこから始まると私は思います。

.....
本当に仕事ができる人は感謝する心を知って
.....

.....
います。頭のおよさだけでは世間は渡っていき
.....

.....
ません。
.....

中学受験に失敗した娘に対して、どうしたらいいでしょう。

この度、娘が中学受験をしたのですが、実力を発揮できず、合格できませんでした。

昨秋、夫と離婚をして、それ以来、ずっと母と子で支え合^{させ}って努力してきたのに、なぜこんなことになったのかと後悔^{こうかい}ばかりです。娘もなぜ自分ばかりが、と神仏に問うています。

長い人生において、たかが中学受験とも思いたいのですが、母子二人、合格を目標にすることが支えでした。どうか、先生のお言葉を私たちにください。(三〇代女性 会社員・経理)

私にはあなたがお子さんの中学受験になぜそれほどこだわるのかが、まず理解できません。

たしかに最近は教育崩壊で、公立中学校よりも中高一貫の私立学校に行かせる親が増えている

と聞いています。

しかし、たとえどんなに立派な中学校に入ったとしても、それで子どもの人生が保証されるわけではありません。高い学費を払って私立に通わせても、そこで悪い友だちができて不良になつて中退する子どもだっているでしょう。似たような家庭の子どもが通う私立よりも、さまざまな子どもが集まる公立の中学校に通ったほうが、むしろ人生勉強になるかもしれないではありませんか。

あなたの相談によれば、お子さんも中学受験に失敗して挫折感を味わっているようですが、そのように思わせたのは、結局のところ、お母さんであるあなたではないでしょうか。相談文を読んでいると、むしろ中学受験に執着しているのはあなたではないかと思えてなりません。

前項の発達障害のお子さんの話とも関連しますが、子どもはけつして親の持ち物ではありません。ん。

今はたとえ幼くて頼りなく見えても、いつの間にか子どもは育つて、巣立っていくものです。それなのに、親が勝手に子どもの進路について、あれやこれやと干渉するのは、親心ではなくて結局はエゴにすぎません。

あなたがお子さんの進学に執着する心の中には、別れたご主人に対する復讐心や、あるいは母子家庭であることに対する無用な引け目があるからではないでしょうか。自分の胸によく手を当ててお考えなさい。あなたのような親御さんでは、お嬢さんがかわいそうです。

寂聴辻説法 瀬戸内寂聴著

発行・集英社インターナショナル 発売・集英社

定価 1,400 円（税込）

ISBN 978-4-7976-7204-6

ウェブでのご注文は [こちらにどうぞ！](#)